

順位表 3/8現在
基本 2 試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	沼津	6p	+7	7	0
2	大宮	6p	+4	5	1 A●
3	FC大阪	6p	+3	4	1
	今治	6p	+3	4	1
5	相模原	6p	+2	2	0
6	松本	4p	+1	4	3
	琉球	4p	+1	4	3
8	岐阜	3p	+2	4	2 --- ---
9	福島	3p	-2	3	5 HO
10	岩手	2p	0	2	2
11	富山	2p	0	1	1
	讃岐	2p	0	1	1
13	長野	1p	-1	2	3
	奈良	1p	-1	2	3
15	北九州	1p	-1	1	2
16	YS横浜	1p	-2	1	3
17	宮崎	0p	-2	2	4
18	八戸	0p	-4	1	5
19	金沢	0p	-5	1	6
20	鳥取	0p	-5	0	5

次回HomeGame

ルヴァン杯1回戦 vs.大宮アルディージャ
3/13 (日) 19:00
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10 分

★
アミカ

ドミ
イン

JR
岐阜駅

通算対戦成績	全19試合 (J2:10試合、J3:8試合、地域決勝:1試合) 岐阜11勝 / 讃岐5勝 / 3分け Jリーグ岐阜ホーム戦:5勝2分2敗			
直近の対戦結果	2023/11/12 岐阜 1-0 讃岐 得点者:山内寛史 J3-35節@長良川			
ここ 3試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/03/02 J3-2節@NACK 大宮 1-0 岐阜	讃岐	2024/03/02 J3-2節@ピカスタ 讃岐 0-0 富山
		2024/02/24 J3-1節@長良川 岐阜 4-1 福島		2024/02/25 J3-1節@ピカスタ 讃岐 1-1 岩手
		2023/12/02 J3-38節@長良川 岐阜 0-1 北九州		2023/12/02 J3-38節@いわスタ 岩手 1-0 讃岐

●今年も僕らに期待と不安を抱かせながら開幕した、全38試合の2024年J3リーグ。開幕戦・2/24(土)ホーム福島戦は、試合序盤にCKで先制点を許すが、#11 藤岡浩介の今季初ゴールで同点に追いついて前半を折り返す。とはいえ前半は自分たちの時間帯が少ない岐阜だったが、後半途中の交代が奏功して、#8 荒木大吾が逆転ゴール。そして#17 田口裕也、#11 藤岡の2点目と後半に大量得点。結局、4-1と見事な逆転劇そしてホーム福島戦の初勝利で、今季の開幕戦を飾った。続く3/2(土)第2節・アウェイ大宮戦は、ともに開幕戦を4-1で勝利した“首位直接対決”に。前半は、昨季J2・大宮が試合を優位に運ぶ展開。何とか持ちこたえていた岐阜だったが、前半ATに失点してしまう。後半は徐々に岐阜も盛り返してゆき、惜しいシーンも何度かあったが、決めきれない。もどかしい時間が過ぎてゆき、そのまま0-1。相手よりもシュートを撃ちながら敗戦という、悔しい結果になった。

開幕2試合の結果、FC岐阜の現在の順位は8位。前節は負けてしまったが、開幕戦には大量得点で勝利できたことで、選手たちは今季の自分たちのサッカーに自信を持っていることだろう。始まったばかりのリーグ戦、まだ全く焦る必要はないが、一方でここでの油断は禁物だ。リーグ戦で上位争いし続けるためには、連敗しないことが何よりも重要だ。ましてや今節はホーム戦。どのようなチーム状況であっても、勝利を掴むために最後まで全力で戦うことが求められる。しっかりと前節での課題を分析・整理した上で修正し、このホーム・長良川で、再び力強く勝利するチームの姿を、僕らサポーターに見せてほしい。

さて、今節の対戦相手はカマタマーレ讃岐だ。2019年にJ3に降格して以来、5季連続で下位に低迷しており、昨季の成績も16位。しかし米山篤志監督2季目となる今季は、選手の入替わりも小規模で、昨季からの上積みで飛躍を目指すシーズンだ。昨年10月に完成した新たな練習場・クラブハウスが今季のチーム力の底上げにも効果を発揮しているだろう。今季これまでの2試合は2引き分けで、現在の順位は11位。そして、讃岐は3/6(水)にホームでルヴァン杯1回戦を秋田と戦い、中3日でのアウェイ戦となるため、コンディショ的には岐阜の方が圧倒的に有利だ。讃岐も今季リーグ初勝利を目指して強い闘志を見せてくるだろうが、負ける訳にはいかない試合だ。

讃岐で警戒すべき選手には、やはり#10 川西翔太を挙げざるを得ないだろう。2019年~2021年に岐阜に在籍し、2021年にはJ3得点王。今季は富山から讃岐に完全移籍して10番を背負い、そしてボランチで起用されている。そして、今季富山から加入した大型FWの#22 大野耀平は昨季5ゴール。また、#11 吉田源太郎と#18 富永虹七は讃岐で昨季4ゴール。今季2試合はベンチメンバーだが、#7 江口直生のFKにも要注意だ。一方の岐阜では、#10 川西とマッチアップするであろう#10 庄司悦大や、2022年に讃岐に在籍していた#39 遠藤元一の活躍に期待したい。

讃岐との(Jリーグでの)通算対戦成績は、FC岐阜の10勝3分5敗・27得点18失点、J3では5勝2分1敗・12得点4失点。ホームでの対戦では、5勝2分2敗・15得点8失点、J3だと3勝1分1敗・11得点6失点。いずれの対戦成績でも岐阜が優位だが、先述したように油断は禁物だ。また、前回対戦である昨季11/12(日)第35節のホーム戦は、#9 山内寛史が挙げた決勝点を岐阜の守備陣がPK阻止などで守り切って1-0での勝利。したがって、今節は#9 山内の今季初ゴールにも期待したい。

現時点では、チームとして課題も残っているものの、それ以上に期待も感じさせる今季のFC岐阜。そのチームをさらに活性化させるのは、ホーム・長良川での後押しだろう。最後までひたむきに走り続ける選手たちの背中を押す、拍手や声援を送ろう。タオマフやゲーフラなどでスタジアムを緑に染めて、選手たちを鼓舞しよう。そして今節も、試合終了の後は、選手たちと共に勝利の歓喜を分かち合い、“HYPER CHANT”をこのホーム・長良川スタジアムに響き渡らせよう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第1節】岐阜4-1福島

●今年も開幕。どんなカテゴリーだって、開幕前は高揚感があるものだ。

前半は福島優勢。福島の森晃太を中心に、石田峻真が上がった後ろのスペースを使われ、跳ね返してもボールを回収されてしっかり繋いで攻め込まれる場面が多かった。そんな中、CKのボールをニアで合わせられて先制される。

ただ早い時間で同点に追い付く事が出来たのは幸い。荒木大吾→藤岡浩介→石田→河波櫻士と素早く繋ぎ、河波のダイレクトの折り返しを藤岡が一度はGKに防がれるも押し込んで同点に。いい連携のゴールだった。

後半は互いに一進一退。荒木の逆転ゴールは、ドリブルからペナ内にカットインしてからのゴール右隅を狙った綺麗なコントロールシュート。第一子誕生を自らお祝い、おめでとう！みんなでゆりかごダンス良かったねえ。

田口裕也の3点目、藤岡の2ゴール目となる4点目は山内寛史→田口、河波→栗飯原尚平の交代が効果的だったか。守備に苦しんだ石田も、2アシストと躍動。4ゴールどれも良いゴールだった。そして福島相手にホーム初勝利。

4点取れたことは喜ぶべきことであるが、次節はいきなり大宮と対戦。いい準備をして臨んでもらいたい。(岐阜の誇り)

●いよいよ始まる2024シーズン。開幕戦の直前は、全クラブのサポーターが等しく高揚感を味わえる、最高の時間ですよ。ずっと開幕戦直前のままで居たいくらい(苦笑)。さてスタメンは予想どおり、PSM名古屋戦と同じ。するとPSMと似たような展開に……と淡い期待を抱いた僕の予想は、即座に見事に打ち砕かれまして(溜息)。試合の序盤から、(岐阜もJ3ではボールを繋ぐサッカーをする方だと思うのだけど)福島の方がボールを繋いで攻めてくる。しかも、崩し方が上手い。今季から就任した寺田新監督は、Jの監督としては初配役だけど川崎での指導歴が長いのは知っていて、それでも驚いた。一方の岐阜は、対戦相手との位置関係もあると思うけれど、PSMの時よりも両SBと両SHの使う“レーン(列)”が重なってしまったりして、上手いポジション取りができていないように感じた。それと同時にボランチの前後のスペースを狙われ、そこをSB(特に左の#22文仁柱)が中に絞ってフォローすると、逆に空いたサイドを突かれて……などと、翻弄される展開。前半14分のCKからの失点は、セットプレーに対する守備が未成熟だという課題も出た。そして、失点直後に#7河波櫻士のシュートがポストを叩いた時には、今日は運も味方していないのかと。前半21分、相手PA中央にいる(笑)#5石田峻真→右の#7河波→ゴール前に折り返して#11藤岡浩介がシュート、弾かれたのを押し込んで今季初ゴール！決めるべき選手が決めて、よしこれで勢いを……。しかしその後も試合は福島ペースで、よく2失点目を許さなかったなあ……。前半だけで福島はシュート10本、対する岐阜は4本。さて後半に修正を……と期待するのだけど、後半直後は修正も効いていないような感じ。ところが、後半16分に#17田口裕也と#24栗飯原尚平を投入したあたりから、流れが一気に岐阜に傾く。後半16分に、#22ムンのインターセプトから、#8荒木大吾が右足で綺麗に巻いたシュートで逆転、自分のための“ゆりかごダンス”を演出。いやあ、コースと良い曲がり方といい、実に美しいシュートでした。そして、岐阜の個の力が福島の組織力を上回り始めたのか、それとも福島の選手たちが(慣れないパス主体の戦術に?)バテてきたのか、徐々に試合は岐阜のペースに。後半26分には、敵陣の左で#8荒木が相手を引きつけてから中央の#6北龍磨に預けると、強いボールを右の#5石田に出し、ダイレクトでゴール前に戻すとニアに入った#17田口がワンタッチで3点目！いやあ、ダイレクトプレーを繋げてのゴールって大好きなんですよ！まさにゴラッソでした。さらに後半33分には、右に張っていた#24栗飯原(なお、彼の強烈な左足はロングパスにも有効ですねえ。)が、インナーラップした#5石田に縦1

本、加速しつつフリーになってクロスを上げると、中央でフリーの#11藤岡が、ドンピシャヘッドで4点目！これで試合はほぼ決着。選手交替をしつつ時間を使って、終わってみれば4-1での快勝。前半終了時に「嗚呼、今日も福島にホームで勝てないのか、開幕戦は勝てないのか……」と憂いていた自分を小一時間ほど説教したいものです(苦笑)。とはいえ、前半の劣勢を考えれば、あのまま押し切られていた可能性もあった訳で、手放しには喜べない。一方で、そんな試合でも勝てたという、別の嬉しさもあつたりします。J3で初めての開幕戦勝利とホーム福島戦の勝利、そして昨季1回ずつだった逆転勝利と4点以上得点しての勝利。でも、まだ1試合。まだまだ何度だって喜びたい。気を引き締め直して、ここからだ。(ささたく)

●待ちに待った今季の開幕戦。例年より(J3生活も長くなったからねえ)半月ほど早い開幕だったから気温の心配もしていたけれど、目標万人には届かないながらも7,800人余も集まれば、そりゃあ、お天道様も試合当日の雨や寒さはなんとかしてくれるってモンですよ。おかげさまで、青空の下、自分にとっての『おせち』、屋台村の老舗4店舗の吉例メニューを堪能することができました。

その上、先行入場待機列の抽選で『8番』という、自分史上最速の順番を引き当てて、なんぞ？コレ。こいつあ、春から……と既にほぼ満足してたところへ大逆転のゴール・ラッシュ！と来たもんだ。なんと、コレが5年ぶりにして、J3に来てから初めての開幕戦勝利！さらに、長良川での福島戦初勝利！となったワケで(アウェイでは勝ち越してるんだけどね)。オマケに第1節が終わった時点で大宮と並んで首位！次節は、その大宮戦なんで、実に久しぶりの首位攻防戦になってしまう。そんなん、試合後は欣喜雀躍、狂喜乱舞とならずにはいられようか……と言いたいところだけどね。福島、怖かったよ、福島さん。特に前半。もう、何点取られるんだろうか？と思ったださ。ウチの守備網の間に上手く入って、ショート・パス繋いで、ハーフタイムまでは大開放だった両SBの裏を使われて。思い違いかもかもしれないが、福島は終了間際までのFKを全部短いパスで繋いでたんじゃなかな？なんか、監督が代わって、サッカーも昨季までの福島とは激変してた気がする。『川崎山脈』と呼ばれた、デッカイ3バックの一角を担った寺田さんのイメージとのギャップがハンパなかったよ。『完成したら、怖いサッカー』ってヤツ？トップの選手も危険だったような気がする。そんな中での4得点。なんといつても、やっぱり、11番の得点感覚よ。中盤まで下りてくるところは昨季と変わりないけど、決定機への絡み方が違う。ユーヤが決めたのもよかったし、ダイゴのシュートの軌道がまたステキ過ぎて。ネットを揺らす前から立ち上がってしまうよね、アレは。ゼイタクを言えば、ヒロフミにも決めて欲しかったな。ゼイタクかな？ゼイタクだな。次節以降に期待しよう！

そんな『お祝い三段重ね』的な開幕戦。このまま、時間が止まってしまえばいいのに……と思っただけだった。こんなに気持ちの良い開幕戦はいつ以来だろう？もちろん、ずーっと上手く行くはずはないだろう。それでも、その無限大のポテンシャルを垣間見せてくれた両SBが絡むサイドアタック。ソレを受ける2トップ。途中から出場して、一人だけ雰囲気違った西谷くん。コレはアカンやつ。妄想が捗っても仕方ない。とりあえず、次節のキックオフまでは酔い痴れたい(笑)。ゴール裏の横断幕。ビッグ・フラッグ。4点目が入って以降の音量、ボルテージ。何もかもが最高だった。だから、アレがスタンダードになるとイイな。ゼイタクか(笑)。(ぐん)

●前半を終わってシュート数は4-10。スコアは1-1だけど、このままだとアカンのでは？という手応えだった。PSM名古屋戦で感じたように、攻撃は悪くない。というか、良い。特に岐阜の右サイド。同点の場面、左から中でスルー→中に入ったSB石田→外に開いた河波→中央でコースケ、厚い攻撃は昨年では見られなかったもの。問題は、前半はその仕掛けまくりの右サイドの裏を福島の3トップに結構気持ちよく使われ

てしまったこと。これが不安だった。
試合後、上野監督は「ボランチの裏を使われていたので整理した」と語っていたが、その修正で守備の問題もクリア、右の攻撃手を行った行ったの河波（いや、行った行ったも長所ですよ）から栗飯原に替えたことで、より石田の爆上がりが活きるようになり（爆上がり系SBは前にスペースがある方が活きる）石田は2アシスト。いやもう、言うことないっす。1つしかなかった商品に「今年からカラー・バリエーションが出来ました」みたいな。
そりゃまだ1試合が終わっただけだ。これから相手にいろいろ対応されるだろう。でも、こんなにもワクワク出来た開幕戦になるとは。愉しみだ。（吉田鑄造）

【第2節】大宮 1-0 岐阜

●2019年6月以来の大宮公園。前回は大木武さん最後の采配の試合だったななどと思い出しながら。

前半0-0で折り返せれば、と思っていたところに終了間際に、先制を許してしまう。ゴール上隅への綺麗な弧を描いたボール、どんなGKでもノーチャンスだっただろう。

後半は岐阜にもいくつかチャンスが訪れる時間帯もあったのだが、最後の部分での精度を欠いて得点を挙げられずタイムアップ。内容的に負けてない部分はあったのだが、試合全体としてはやはり個々の技術力、チームとしての総合力の差は埋められない部分があったかなと。

幸いというか、すぐ13日にはルヴァンカップで再び大宮と対戦する。週中水曜日のカップ戦ということで、互いにメンバーに若干の変更はあるかもしれないが、今度はホーム長良川での開催、やり返そう！もちろんその前の讃岐戦も重要なのは言うまでもなく。

岐阜側ゴール裏スタンドに、2019年にFC岐阜に所属し、今年1月に逝去された横山知伸さんのメモリアルコーナーが。前の週の開幕戦で設置され、岐阜戦でもあればいいなと思っていたので、大宮さんのご配慮に感謝です、ありがとうございました。（岐阜の誇り）

●2019年以来、久しぶりの対戦となる大宮そしてアウェイ・ナクスタ。開幕戦でお互いに4-1で勝利したので、いきなり第2節にして“首位攻防戦”となっているけれど、試合に勝ったのは2018年アウェイ（あの時は古橋亨梧がいましたからねえ（笑））だけで、あとは殆ど勝てていない相手。今年のJ3では大宮は当然ながら優勝候補。でも、だからこそ勝ちたいし、今季のチーム状況を測る上では絶好の対戦相手。しかも駅から少し歩けば着ける専用スタジアムでの土曜昼間開催。チームへの期待も高まる中、数多くの岐阜サポーターが駆けつけた。

さて、試合は序盤から、想定していたもの大宮が主導権を握る。パス回しも上手いだけけれど、それ以上にボールがない場面での動きの良さが光っていたと僕は思う。岐阜の選手が少しでもボールを止まって待っていると、そこに素早く割り込んでボールを奪ったり、複数名で囲んでしまったり。そのため岐阜はセカンドボールをなかなか拾えない。ただし、いわゆるデュエル（1対1）の強さでは岐阜の方が勝っていたように思う。大きな決定機は両チームとも生まれずに時間が経過していくけれど、前半ATに失点。直前に#17田口裕也が倒されて1人不足していたのもあるだろうが、少し寄せが甘くなったところで狙い澄ませたシュートを撃たれてしまった。相手を誉めるしかないようなコースだったけれど、実にもったいない時間帯での失点だ。猛省してほしい。

ただ、今節もHTでの修正と後半での選手交代が奏功して、徐々に岐阜のペースに。後半だけ見たら、岐阜の方がシュートも撃てていたし、良かったんじゃないだろうか。だけど、そこで決めきる決定力が、残念ながら大宮よりも不足していた。それと、強い相手との対戦で、通常よりも体力や精神力の消耗が激しかったのだろう。岐阜の選手が安易なパスミス

をしたり、あるいは芝で滑っている場面が多かったように思う。そのまま0-1で試合は終了し、敗戦。あと少し、足りなかった。それは悔しいし残念だけれど、選手たちはチームの方向性を理解して最後まで戦ってくれたし、大宮が“手も足も出ない相手”ではないと感じさせてくれた。ルヴァン杯そして（気が早いけれど）ホーム最終戦で、岐阜が勝つために今後もチーム力の向上が必要だし、可能だと信じている。（ささたく）

●ココへ来るのは5年ぶり。やっぱり、いいスタジアムだなあ、としみじみ。ただ、最上段近くに陣取っての観戦だったので「改修中のため稼働してないビジョン」を見られなかったのが残念だ（笑）。そういえば、メンバー表はどんなふうになってたんだろ？

試合は0-1。今季初の敗戦。大宮と言えば『変態外国人選手』（褒め言葉です。念のため。）というイメージがあって、昨季も何人かいたはずなんだけど、サブにも入ってないというのが、なんというか、らしからぬ感じで落ち着かなかった（苦笑）。とはいえ、結果は妥当。歴然とした差があったよなあ、というのが感想。特に、キックオフから25分くらいまでは完全に大宮のペース。そんな中で訪れた決定機。大吾のシュートまでは素晴らしかった。残念。

失点の場面。あのシュートは、もう、どうしようもないよね。見送るしかなかったモギシューの心境はいかばかりだったか。でも、ゴールを決めたDF。起点となったのも彼だったよね？モギシューのキックをアタマで競り落としてからの流れで決められちゃった。下口っていつのか。覚えておこう。

でもね。「歴然とした差」とは書いたけど、全くどうしようもない、というほどではなかった。逆に、公式スタッツのシュート数はウチのが多くなってるとし、少なからずチャンスはあった。そのうちのどれかを決めて、勝ち点1でももぎ取れるようになってくれたら……と願う。

両チームにポストが味方する場面もあったし、主審の判断もスムーズに思えた。イイ試合だった。すぐに長良川でのルヴァン杯がやってくる。やり返そうぜ！（ぐん）

●現地で観ていたけれど、悔しいとかは別にして、総合的に勘案して判断すれば（苦笑）「納得できる」1点差負けだったんじゃないかな。

明らかに大宮の方が上回っていた点は2つある。「自分たちのボールの時に相手（岐阜）に渡さない攻撃技術」と「相手のボールの時に相手から奪う守備技術」だ。でも、その技術がどの場面でもうまくいったかというところでもなく、だから大宮が岐阜のボールを奪えなかった時にはキチンと岐阜の決定機になった。そこでゴールを奪えていれば違う勝ち点配分にもなっただろう。

決勝点は（大宮から見て）左サイドから厚く攻められて、カイケンが泉の裏抜けをケアして低く構えて、他の2人も泉にプレスをかけに行っただので下口に入られるスペースが出来ちゃった。戻って対応すべきは河波だったんだけどね（岐阜にいた頃古橋なら戻って対応していたと思う）。でも、これは下口が（公式サイト）のインタビューで「泉がボールを持ったら岐阜がプレスかけるのは共有出来ていた」と話している（つまり『大宮が作った』スペースだった）ので、向こうが1枚上手、でしたね。

岐阜は、FWが田口とコースケの組み合わせ。田口も試合の途中から泥臭くポストプレーに徹するようになって、昨年の奈良鴻池での涙の味を思い出したかな。逆に、ちょっと気になるのは河波のスピードが通用しなかったこと。右サイドは石田の「行った行った」が効果大みたいだから、同じ「行った行った」系を縦に並べるより、2列目にはアクセントをつけるタイプの方がいいのかもしれない。

そんな風に「戦術的にああだこうだ」が語れるくらい、岐阜と大宮には総合的に勘案して判断すれば（くどい（笑））大きな差はないんじゃないかな、と。長良川ホームもあるし、ルヴァンもある。文字通り『倍返し』しましょ。（吉田鑄造）

